

めぐみイエス・キリスト教会

2025年3月23日(日)第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第751号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌420「雨を降り注ぎ」 p. 676

【交読文】 No.52 ルカの福音書1章(抜粋) p. 921

【賛美Ⅱ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」p. 150

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「神様は」

【聖書朗読】 ルカの福音書9章7節～9節 (p. 130下段左側)

【礼拝説教】 《領主ヘロデと主イエス》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1. 共観福音書における平行記事から

※マタイの福音書14章1節～12節前「ヘロデの誕生祝い」(新約p.28)

14:1 そのころ、領主ヘロデはイエスのうわさを聞いて、

14:2 家来たちに言った。「あれはバプテスマのヨハネだ。彼が死人の中からよみがえったのだ。だから、奇跡を行なう力が彼のうちに働いているのだ。」

14:3 実は、以前このヘロデは、自分の兄弟ピリポの妻ヘロディアのことでヨハネを捕らえて縛り、牢に入れていた。

14:4 ヨハネが彼に、「あなたが彼女を自分のものにするには律法にかなっていない」と言い続けたからであった。

14:5 ヘロデはヨハネを殺したいと思ったが、民衆を恐れた。彼らがヨ

ハネを預言者と認めていたからであった。

14:6 ところが、ヘロデの誕生祝いがあり、ヘロディアの娘が皆の前で踊りを踊ってヘロデを喜ばせた。

14:7 それで彼は娘に誓い、求める物は何でも与えると約束した。

14:8 すると、娘は母親にそそのかされて、「今ここで、バプテスマのヨハネの首を盆に載せて私に下さい」と言った。

14:9 王は心を痛めたが、自分が誓ったことであり、列席の人たちの手前もあって、与えるように命じ、

14:10 人を遣わして、牢の中でヨハネの首をはねさせた。

14:11 その首は盆に載せて運ばれ、少女に与えられたので、少女はそれを母親のところに持って行った。

14:12前 それから、ヨハネの弟子たちがやって来て遺体を引き取り、葬った。

●ポイント2. 死人の復活を信じていることとは？

※使徒の働き23章8節「最高法院において」 (新約p.283)

23:8 サドカイ人は復活も御使いも霊もないと言い、パリサイ人はいずれも認めているからである。

●ポイント3. ヘロデの願いの成就とは？

※ルカの福音書23章6節～9節「エルサレムにて」 (新約p.169)

23:6 それを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ね、

23:7 ヘロデの支配下にあると分かったら、イエスをヘロデのところへ送った。ヘロデもそのころ、エルサレムにいたのである。

23:8 ヘロデはイエスを見ると、非常に喜んだ。イエスのことを聞いて、ずっと前から会いたいと思い、またイエスが行なうしるしを何か見たいと望んでいたからである。

23:9 それで、いろいろと質問したが、イエスは何もお答えにならなかった。

◎先週のメッセージ【十二弟子の派遣】

《マルコによりますと、主イエスの初期段階のミニストリーは、悪霊からの解放と病とあらゆる煩いからの癒しに、重きが置かれていました。

そして、そのミニストリーを主イエスお一人が行なっていたのです。しかし、日毎に、多くの人々が押しかけて来るようになりました。主だけでは、癒しと解放のミニストリーを続けて行くことが、物理的に無理になって来たのです。それゆえ十二弟子たちを、弟子訓練と共に、ご自身の代わりとして、町や村に遣わすことを決められたのです。

十二弟子とは、シモン・ペテロとその兄弟アンデレ、そしてヤコブ、ヨハネ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、熱心党员と呼ばれていたシモン、ヤコブの子ユダ、裏切り者となったイスカリオテのユダのことです。十一名の弟子たちはガリラヤ出身ですが、イスカリオテのユダだけが、カリオテの出身になります。

さて、主イエスは彼らを二人ずつ六チームに分けます。この時、十二使徒の中には、三組の実の兄弟がおりました。主はあえて、別々にされたと考えます。また、主は彼らを遣わされる時に、この旅が守られ、必要な物がすべて与えられる約束と、注意を与えられました。「異邦人の道に行ってははいけません。また、サマリア人の町に入ってははいけません。イスラエルの家の失われた羊たちの所に行きなさい。」つまり、同胞であるユダヤ人の所に行きなさいと言うことです。

そして、彼らは出て行き、村から村へと巡りながら、いたる所で福音を宣べ伝え、癒やしを行なったのです。福音とは、「神の国が近づいた。だから悔い改めて主イエスを信じなさい。」と言うことであり、そのしるしとして、彼らは病を癒やし、悪霊を追い出したのです。

使徒の働きの時代は今も続いています。今はまだ恵みの時です。救いの扉は開かれています。一人でも多く、入ることが出来る様に、私たちは、日々祈り、日々証しをして行かなくてはなりません。》

◎お知らせ

※次回は2025年3月30日午前10時より、通常通り行ないます。